

# 三県合同研修会 報告

学術部 村田 守宏

平成 27 年 11 月 22 日（日）に名古屋 KKR ホテルで三県合同研修会が開催されました。三県合同研修会とは、愛知、岐阜、三重の三県が毎年持ち回りで研修会を開くもので、「学び」と「親睦」を兼ねた大会です。今回は、愛知県が担当となったため、名古屋城近くの KKR ホテルに会場が決まりました。曇天にもかかわらず、参加人数は、愛知 39 名、岐阜 4 名、三重 6 名、合計 48 名とまずまずの集まりで主催した側としては、ほっとしたというところではあります。

そんな中、午前 9 時から研修会は始まりました。

まずはじめに長谷川会長の挨拶があり、その後直ちに講義がスタート。以下、内容を要約します。

## ◆ 第 1 講義 「陸上競技における足部の怪我について」 佐藤 丈能

佐藤先生は、本年度の「スポーツ傷害」研修の常講講師であり、やわらかな口調と理論的な説明が特徴的な臨床家です。今回の講義は、スライドを使って①ハイジャンパーズアングル②足根洞症候群③足部疲労骨折（腓骨遠位疲労骨折、踵骨疲労骨折、船状骨疲労骨折、中足骨疲労骨折、Jones 骨折、基節骨疲労骨折）④過剰骨・種子骨障害（有痛性三角骨、有痛性外脛骨障害）について、「発生機序」「評価・診断」「治療」に分けて解説されました。また、実技では、モデルを使って足関節の検査法と外果周辺への刺鍼を披露されました。

## ◆ 第 2 講義 「器械体操におけるスポーツ傷害」 小森田 昭浩

小森田先生も、今年度 本会主催の「第 2 回スポーツ傷害 研修会」を担当され、わかりやすい解説が好評であった講師です。約 80 分の講義をまとめると次のようになります。

- ・競技特性、治療上の問題、トレーナーとして鍼灸師のできること。
- ・主な傷害、ケガへの治療と復帰、鍼の治療、筋トレ、テーピング。
- ・膝の障害の圧痛部位

実技は、10 分という短い時間で膝障害の「刺鍼」「筋トレ」「テーピング」について説明されました。

## ◆ ランチョンセミナー「AED 解説」 (株) 日本光電 樋江井 秀樹

AED の普及活動の一環として、最新機械の解説をしていただきました。一般的に救命講習会などで AED の取り扱い方法を学ぶことはありますが、機械の構造についての

説明は少ないと思います。「イラスト画面表示」など日進月歩のAED開発技術には、驚かされました。ただ鍼灸院での購入は、ほとんどないということで、こうした分野でも今後の発展が望まれます。

◆ 第3講義 「野球の障害について」 牧 正明

本会理事でスポーツ障害といえば牧先生という程、多くのスポーツ選手の治療に取り組んでいます。野球の監督という指導者として十数年の経験と現場で遭遇した怪我や障害を詳しく解説。特にピッチャーの誤った指導で発症する野球肩は、実際に投球動作を交えてわかりやすく解説していただきました。

- ① 上肢の故障とケガ（野球肩の治療と考察）
- ② インナーマッスルとアウターマッスルの関係
- ③ 上肢の故障とケガ（野球肘の治療と考察）
- ④ 運動鍼（仮名）の治療法の実技供覧は明日の臨床にもスグに使える内容でした。

◆ 第4講義 「法改正に向けて」 小川 卓良

業界で著名な小川先生を招いてのお話は、鍼灸師の将来、社会的地位の向上についての講義でした。こうした内容は、とにかく堅苦しい話になりがちですが、氏の発想の豊かさと鋭く要点を突いた解説が面白く、あっという間に時間が経過してしまいました。政治、業界の団結、教育など目指すハードルは高く、私たち一臨床家もできるところから協力する必要性を感じました。以下、講義内容です。

- ① 法改正を行おうとする背景
- ② 日本鍼灸師会での法改正の活動経過
- ③ 法改正は国民に寄与するものでなければならない
- ④ 法改正の手順
- ⑤ どのように法律にしたいか
- ⑥ 前回改正時との比較
- ⑦ 法改正の骨子（3案）

以上、名古屋の地で4年ぶりの開催となった三県合同研修会は、盛会の内に終了しました。経験豊富な講師による「スポーツ傷害」3題と「業界の将来」に向けての話は、身近な臨床と大きな目標という両極端なテーマで、聴講者には、とても刺激になったと思います。実際に講義終了後、ロビーで講師に質問する受講生の姿を多く見かけました。これからも臨床家が喜ぶ講演を提供していきたいと考えています。